第十九講　「し」の識別／「なむ」の識別

「し」の識別

【識別対象】

１　サ変動詞「　」の「　　形」
２　過去の助動詞「　」の「　　形」
３　「　　」の副助詞「し」

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
／	サ変「す」							／
形	き							特殊型

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★〈見分け方〉

１　「　　」と訳せる＝サ変動詞

（例）物語**し**て、…

２　「　　形」＋**し**＝過去の助動詞「き」

（例）思はざり**し**を

３　「し」を省いても文意が通じる＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照（66ページ）

（例）唐衣きつつなれにし妻**し**あれば…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

①　先追ふ声々などして、上達部など…
②　いと嘆かしと思へり。
③　観念のたよりなきにしもあらず。
④　みなかねて思ひしことなれど、…

ア　副助詞
イ　過去の助動詞「き」の連体形
ウ　サ行変格活用動詞の連用形
エ　形容詞の活用語尾

①＝　②＝　③＝　④＝

問二　次の傍線部「し」の文法的説明をそれぞれせよ。

歌など学問[a]しけるとぞ聞こえ[b]し。

a＝

b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「なむ」の識別

【識別対象】

１「　　　　」の終助詞「なむ」
２「　　・　　」の助動詞「ぬ」の「　　　形」＋推量の助動詞「む」
３ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
４「　　　　」の係助詞「なむ」

★〈見分け方〉＝「　　　　」

１「　　形」＋なむ＝他者願望〔あつらえ〕の終助詞「なむ」

（例）峰も平らになりな**なむ**。

２「　　形」＋な(む)＝完了・強意の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」

（例）わろかり**なむ**と思ひて、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3　「なむ」・「なむ」・「なむ」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」

（例）出でていなむと思ひて、…

4　**1～3以外**＝強意の係助詞「なむ」

（例）かき抱きて**なむ**寝にける。

問三　「風より先にまたも訪はなむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　終助詞
イ　係助詞
ウ　助動詞と助動詞
エ　動詞の一部と助動詞
オ　助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「我、人に劣りなむや」の傍線部の文法的な説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞
イ　終助詞
ウ　副助詞
エ　完了の助動詞＋推量の助動詞
オ　断定の助動詞＋推量の助動詞

問五　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化（ふか）してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「かはれる事もありなむ」の傍線部と同じ用法の「なむ」として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　うぐひすは植ゑ木の木の間を鳴き渡らなむ
イ　かの草をもみてつけぬれば、すなはち癒ゆとなむ
ウ　容貌もかぎりなくよく、髪もいみじく長くなりなむ
エ　わびぬれば身を浮き草の根を絶えて誘ふ水あらばいなむとぞ思ふ

問七　次の傍線部の「なむ」の文法的説明として適当なものを、後の中から選べ。

①　かしこ〔＝ここでは「自邸」〕へものしなむ。
②　いくばくもあらぬ心地なむするなむ、いとわりなき。
③　また対面せでや、やみなむと思ふこそ、いみじけれ。
④　はや奉りなむ。

ア　①のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
イ　②のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
ウ　③のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
エ　④のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「見てだに帰りなむ」を単語にくぎったとき、各単語の品詞として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　動詞・助詞・助動詞・助動詞・動詞・助詞
イ　動詞・助詞・助詞・動詞・助詞
ウ　動詞・助動詞・助動詞・動詞・助動詞・助動詞
エ　動詞・助動詞・助詞・動詞・助詞
オ　動詞・助詞・助詞・動詞・助動詞・助動詞
カ　動詞・助動詞・助動詞・助詞・動詞・助動詞

問九　「我が玉の緒は尽きななむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私の琴の絃はきっと切れてしまうだろう
イ　私の琴の絃は切れたりしないだろう
ウ　私とあなたの絆を終わりにしたくない
エ　私の命はきっとなくなってしまうだろう
オ　私の命はなくなってしまってほしい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★注意すべき「なむ」

（例）受け**なむ**

●「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

（例）親王（みこ）、酔ひて（寝所に）入りなむとす。月も隠れ**なむ**とすれば、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●「しなむ」の場合

「し」が「　　　」と訳せる＝サ変「す」連用形＋「　　　」＋「　　　」

「し」が「　　　」の意味＝ナ変動詞未然形＋推量の助動詞

（例）連歌し**なむ**。

●「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

（例）いと恥ずかしく**なむ**。

連用形
〜
〜
〜
｝＋**なむ**＝**係助詞**

●「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

（例）一筋に通ひて**なむ**ありける。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十九講

① 次の傍線部についての文法的説明として最も適切なものを、後の中からそれぞれ選べ。

恋[a]しや慣れし里のあま人
磯越す風は聞く心地[b]して
この人も安嘉門院（あんかもんゐん）に候（さぶら）ひ[c]しなり。

ア　名詞の一部　　イ　サ行変格活用動詞　　ウ　四段活用動詞の活用語尾
エ　形容詞の活用語尾　　オ　助動詞　　カ　助詞

a＝　　b＝　　c＝

② 「集などにも入りなむ。」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞　　イ　終助詞
ウ　動詞の一部＋推量の助動詞　　エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　「～よきは短くてあら<u>なん</u>。」の傍線部の文法的解説として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　詠嘆の終助詞
イ　ナ変動詞＋推量の助動詞
ウ　他者願望の終助詞
エ　強意の係助詞
オ　強意の助動詞＋推量の助動詞

④　「良かりなむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」
イ　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」
ウ　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」
エ　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形
オ　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　模範解答

問一　①ウ　②エ　③ア　④イ

問二　a　サ行変格活用動詞「す」の連用形
　　　b　過去の助動詞「き」の連体形

問三　ア

問四　エ

問五　カ

問六　ウ

問七　イ

問八　オ

問九　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十九講　模範解答・解説

〔解説〕

①　a　形容詞「恋し」の活用語尾。よって、正解はエ。

b　心地が「する」と訳せるので、「心地して」の「し」は、サ変動詞「す」の連用形。よって、正解はイ。

c　ハ行四段動詞「候ふ」の連用形に接続しているので、過去の助動詞「き」の連体形。よって、正解はオ。

②　ラ行四段活用動詞「入る」の連用形に接続しているので、この「なむ」は強意の助動詞＋推量の助動詞。よって、正解はエ。

③　ラ変「あり」の未然形に接続しているので、この「なむ」は他者願望の終助詞。よって、正解はウ。

④　形容詞「良し」の連用形で、「良かり」なので「か＋ラ変」の補助活用。したがって下に助動詞がつく。よって、この「なむ」は強意（完了）の助動詞＋推量の助動詞。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　a　エ　　b　イ　　c　オ　　②　エ　　③　ウ　　④　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。